

授業課程

授業の流れ	学習活動	教師の働きかけとねらい、全体への評価(☆)	個への支援と評価 (○支援☆評価)							
			A	B	C	D	E	F	G	H
1 つかむ	○学習課題を確認する。	○個々の学習課題をつかむことができるようにするために具体物を提示し、視覚支援をする。	○興味を高めるために、複数の箱を提示し、どの箱が一番大きいか予想をたて、理由を話し合うようにする。 め 箱の大きさを調べよう。	○学習意欲を喚起するために、ボールがぴったりと入る箱とは、具体的にどういうことかについて話し合う場面を設け、各学年に応じた問題を提示するようにする。						
2 考える	○自力解決をする。	○それぞれが見通しを持つことができるようにするために、学習過程とヒントを記入したワークシートを準備する。 ☆積極的に自分の考えを明確にしようとしている。	○サイコロのような形の任意単位のものを見付け出すことができるようにするために、箱の特徴をおさえる。 ・箱は紙だから水を入れて比べることはできない。 ・紙テープで長さを測ると、たては長いが横が短くなって比べることができない。	○円や球の半径と直径の関係を想起できるようにするために、掲示物などで視覚支援をする。また、ワークシートのヒントや絵を参考にするよう助言する。早く終わった児童については、応用問題を準備しておく。				○主体的に立式し、解答することができるようにするために、ヒントの多いワークシートを提示する。	○主体的に小数の乗法や減法を活用することができるようにするために、問題場面を分かりやすく記入したワークシートを提示する。	
3 深める	○全体で交流する。	○自信を持って発表することができるようにするために、全体交流の前にペアトークで発表の仕方や聞く視点を確認するよう助言する。全体交流では、算数用語を活用したことが分かるような板書を工夫し、視覚支援する。 ☆友達の発表のよいところを見付けることができる。	○「サイコロが○個分」という話型で話すことができるようにするために、ワークシートに話型を明記しておく。 ☆既習事項をもとに、進んで比べ方を考えようとしている。 【関・意・態】 (行動観察・ワークシート)	○発表意欲を喚起するために、発表する問題を分担し、「半径」「直径」「縦の長さ」「横の長さ」などの算数用語を活用するよう助言する。 ☆球の特徴を理解し、箱の縦、横、高さを求めることができる。 【技】 (行動観察・ワークシート)					○発表することが難しい様子が見られた場合には、計算方法をホワイトボードに書き、提示するようにする。 ☆問題場面を把握し、演算を決定することができる。 【技】 (行動観察・ワークシート)	
4 まとめる ふりかえる	○本時のまとめをする。 ○本時の振り返りをする。	○学習のまとめをワークシートに記入するよう助言する。 ○これまでの学習を生かして、生活に役立つ計算をすることができたことを褒め、今後の学習意欲につなげる。 ☆本時のまとめを共有することができる。	○ボールが縦にいくつ、横にいくつ並ぶか調べることで、箱に何個入れることができるか分かることを実感できるようにするために、掲示物を工夫し、視覚支援をする。 ま おなじおきさのサイコロがいくつはいるかをしらべると、はこの大きさがわかる。	○ボールの直径をもとに箱の縦と横の長さを計算すると、ぴったりな箱を選択することができることを実感できるようにするため、具体物を活用する。 ま ボールの直径の長さとは何個分かが分かれば、計算で箱のたてや横、高さを求めることができる。 ふ 計算したら、ボールがぴったり入る箱を作ることができた。						